

だい 10 課 てしまう (2)

これから起こるかもしれない心配なことを話す

ぜんかい  
前回の「てしまう」

「そのつもりはなかったけど、そうなった/そうした」

「そうしようとおもっていたけど、そうならなかった/そうしなかった」

1. まだ起こっていないことを話す「てしまう」

しよきゅう べんきょう  
初級で勉強した「てしまう」の文は全部終わったこと⇒できごとを話すのに使っていた。

れい  
例) 「もう全部食べてしまった。」 「パソコンをなくしてしまった。」

1) 会話文の例

かいわ  
〈会話1〉

「じゃあ、捨てちゃおうよ」

「捨てちゃうのは、良心がとがめる」 〈いつものこと〉

かいわ  
〈会話2〉

「(ブラックのコーヒーをお願いされたのに、牛乳入りのコーヒーを出して、  
牛乳を入れてしまったことを) 気づかれちゃったら、やばい」

「もしあの人が牛乳アレルギーだったら、

(牛乳入りのコーヒーを飲んで) 大変なことになっちゃいませんか??」

「コーヒー冷めちゃいますから、先輩、早く行ってください!

でも、こぼしちゃわないようにゆっくり歩くんですよ!」

◎まだ起こっていないこと、

これから起こるかもしれない心配なことを話している。

2) これから起こるかもしれない心配<sup>しんぱい</sup>なことを話す<sup>はな</sup>「てしまう」の練習<sup>れんしゅう</sup>

1. これから起こるおそれ<sup>おそれ</sup>（良くない可能性<sup>かのうせい</sup>、心配<sup>しんぱい</sup>）があること、

それが起こったら困<sup>こま</sup>ると心配<sup>しんぱい</sup>して…

「もし～たら、～ちゃう/てしまう（かもしれない）」

### 〈練習1〉

例) もしあの人が牛乳アレルギー<sup>ひと ぎゅうにゅう</sup>だったら、

（牛乳入りのコーヒーを飲む<sup>の</sup>と）大変<sup>たいへん</sup>なことになるおそれがある<sup>こま</sup>。それは困る。

⇒もしあの人が牛乳アレルギー<sup>ひと ぎゅうにゅう</sup>だったら、

（牛乳入りのコーヒーを飲む<sup>の</sup>と）大変<sup>たいへん</sup>なことになっちゃう<sup>こま</sup>。それは困る。

①学校<sup>がっこう</sup>に行く前<sup>い</sup>にコンビニに寄<sup>よ</sup>ったら、授業<sup>じゅぎょう</sup>に遅<sup>おく</sup>れるおそれがある<sup>こま</sup>。それは困る。

②何も準備<sup>なに じゅんび</sup>しないで、ミーティングに出<sup>で</sup>たら、

すごくときどきするおそれがあるよ<sup>いや</sup>。それは嫌だ。

③今日は金曜日<sup>きょう きんようび</sup>。今<sup>いま</sup>、坂本<sup>さかもと</sup>さんに見つかったら、

夜飲<sup>よるの</sup>みに誘<sup>さそ</sup>われるおそれがある<sup>こま</sup>かも。それは面倒だ。

④明日<sup>あした</sup>もしお腹<sup>なか</sup>がいたくなったら、試験<sup>しけん</sup>に失敗<sup>しつぱい</sup>するおそれがある<sup>こま</sup>かも。それは困る。

⑤もし今<sup>いま</sup>PS5を買<sup>か</sup>わなかったら、

またしばらく買<sup>か</sup>えなくなるおそれがあるよ<sup>いや</sup>。それは嫌だ。

かいとうれい  
〈解答例〉

- ①学校に行く前にコンビニに寄ったら、授業に遅れちゃう。それは困る。
- ②何も準備しないで、ミーティングに出たら、すぐどきどきしちゃうよ。それは嫌だ。
- ③今日は金曜日。今、坂本さんに見つかったら、夜飲みに誘われちゃうかも。それは面倒だ。
- ④明日もしお腹がいたくなったら、試験に失敗しちゃうかも。それは困る。
- ⑤もし今PS5を買わなかったら、またしばらく買えなくなっちゃうよ。それは、嫌だ。

2. 今心配していることが起こったとき、したくないことをするとき、  
どんなネガティブな気持ちになるかを言う・・・
- 「～ちゃったら、(どう)」 「～ちゃうのは、(どう)」  
/ 「～てしまったら、(どう)」 「～てしまうのは、(どう)」

れんしゅう  
〈練習2〉

例1) ブラックのコーヒーをお願いされたのに、ミルク入りのコーヒーを出したら、  
ミルクを入れてしまったことを気づかれちゃう。それはやばい。

⇒ブラックのコーヒーをお願いされたのに、ミルク入りのコーヒーを出して、  
ミルクを入れてしまったことを気づかれちゃったら、やばい。

例2) 捨てちゃう。それは、良心がとがめる。  
⇒捨てちゃうのは、良心がとがめる。

①学校に行く前にコンビニに寄ったら、授業に遅れちゃう。それは困るなあ。  
来週テストだから。

②何も準備しないで、ミーティングに出たら、  
すぐどきどきしちゃう。それは嫌だなあ。

③今日は金曜日。

今、坂本さんに見つかったら、夜飲みに誘われちゃう。それは面倒だなあ。

④明日もしお腹がいたくなったら、試験に失敗しちゃう。それは困るなあ。

⑤もし今PS5を買わなかったら、

またしばらく買えなくなっちゃう。それは嫌だなあ。

〈解答例〉

①学校に行く前にコンビニに寄って、授業に遅れちゃったら、困るなあ。来週テストだから。

/学校に行く前にコンビニに寄って、授業に遅れちゃうのは、困るなあ。来週テストだから。

②何も準備しないで、ミーティングに出て、すぐどきどきしちゃったら、嫌だなあ。

/何も準備しないで、ミーティングに出て、すぐどきどきしちゃうのは嫌だなあ。

③今日は金曜日。今、坂本さんに見つかったら、夜飲みに誘われちゃったら、面倒だなあ。

/今日は金曜日。今、坂本さんに見つかったら、夜飲みに誘われちゃうのは、面倒だなあ。

④明日もしお腹がいたくなって、試験に失敗しちゃったら、困るなあ。

/明日もしお腹がいたくなって、試験に失敗しちゃうのは、困るなあ。

⑤もし今PS5を買わないで、またしばらく買えなくなっちゃったら、嫌だなあ。

/もし今PS5を買わないで、またしばらく買えなくなっちゃうのは、嫌だなあ。

3. 悪い結果が予想されるから、

そうならないように、予防のために何かをしよう…

「～ちゃいます／ちゃう から、(何をする)」

/「～てしまいます／てしまう から、(何をする)」

「～ちゃわないように、(何をする)」

/「～てしまわないように、(何をする)」

かいわぶん  
〈会話文〉

コーヒー冷めちゃいますから、先輩、早く行ってください！

でも、こぼしちゃうないように<sup>1</sup>ゆっくり歩いてください！

れんしゅう  
〈練習3〉

例1) (今持って行かなかったら、) コーヒーが冷めちゃう。それは良くない。

だから、そうならないように、早く持って行ってください。

⇒コーヒーが冷めちゃうから、コーヒーが冷めちゃうないように、  
早く持って行ってください！

例2) はやく歩くと、コーヒーをこぼしちゃう。それは良くない。

だから、そうならないように、ゆっくり歩いてください。

⇒はやく歩くと、コーヒーをこぼしちゃいますから、  
コーヒーをこぼしちゃうないように、ゆっくり歩いてください！

「ちゃう」の中に

「それは良くない」

という意味があるの

で、「それは良くない」

などのことばは、

言わなくても OK！

言っても OK！

①学校に行く前にコンビニに寄ったら、授業に遅れちゃう。それは困る。

だから、そうならないように、今日は朝ご飯は我慢する（食べない）。

②なにも準備しないで、ミーティングに出たら、すごくときどきしちゃう。それは嫌だ。

だから、そうならないように、もう夜は遅いけど、ちゃんと準備をしたい。

③今日は金曜日。今、坂本さんに見つかったら、夜飲みに誘われちゃう。それは面倒だ。

だから、そうならないようにこの道じゃなくて、

坂本さんが絶対に通らないあっちの道を通ろう。

<sup>1</sup> 「こぼさないように」でも OK！「こぼしちゃうないように」は「こぼすという失敗をしないように」というニュアンスを感じる。

④明日もしお腹がいたくなったら、試験に失敗しちゃう。それは困るなあ。  
だから、そうならないように、今晚はお腹にやさしいものを食べましょう。

⑤もし今PS5を買わなかったら、またしばらく買えなくなっちゃう。それは嫌だなあ。  
だから、そうならないように、思い切って今買おう。

〈解答例〉

- ①学校に行く前にコンビニに寄って、授業に遅れちゃったら、困るから、  
／コンビニに寄ったら、授業に遅れちゃうから、授業に遅れちゃわないように朝ご飯は我慢する
- ②なにも準備しないで、ミーティングに出て、すぐどきどきしちゃったら、嫌だから、  
／ミーティングに出たら、すぐどきどきしちゃうから、  
どきどきしちゃうないように、もう夜は遅いけど、ちゃんと準備をしたい。
- ③今日は金曜日。今、坂本さんに見つかって、夜飲み誘われちゃったら、面倒だから、  
／今、坂本さんに見つかったら、夜飲み誘われちゃうから、  
誘われちゃわないようにこの道じゃなくて坂本さんが絶対に通らないあっちの道を通ろう。  
※この文は、「坂本さんに見つからないようにあっちの道を通ろう」と言うほうが自然。
- ④明日もしお腹がいたくなって、試験に失敗しちゃったら、困るから、  
／もしお腹がいたくなったら、試験に失敗しちゃうから、  
お腹がいたくなっちゃうないように、今晚はお腹にやさしいものを食べましょう。
- ⑤もし今PS5を買わないで、またしばらく買えなくなっちゃうのは嫌だから、  
／もし今PS5を買わなかったら、またしばらく買えなくなっちゃうから、  
買えなくなっちゃうように思い切って今買おう！

◎「まだ起きていないこと」「これからのこと」を話す「てしまう」は、これから悪いことが起こるかもしれないというおそれ・心配なことを話すのにも使える。そして、今回は「そんなことが起こったら嫌だ」、「そんなことが起こったら嫌だから、予防として何をする」という文を作る練習をした。

## 2. 終了・確定「てしまう」

1) 「コーヒー捨てちゃおう」＝コーヒーを捨てて、この面倒な状況を終わりにしよう。

◎「完了」(「全部食べてしまった」「全部読んでしまった」など)と同じ意味のグループだが、終わったことではなく、これからするかもしれないことについて言う。完了・終了・確定の「てしまう」には「速い」というニュアンスが含まれることがある<sup>2</sup>。

〈練習4〉 次の文を見てください。自分(たち)がすること、はやく終わらせたいことに「ちゃおう」「ちゃいます」を使って言いましょう。

例) 全然トイレから戻ってこないね。先に乾杯して、この状況を終わりにしよう。

⇒ 全然トイレから戻ってこないね。先に乾杯しちゃおう。

① あ～、もう 30分も待っているのに来ない。もう帰って、この状況を終わりにしよう。

② あ～、この問題もう 1時間も考えているのに分からない。

今日はもう寝て、この状況を終わりにしよう。

③ この最後の一個誰も食べないの??

じゃあ、私が食べて、この状況を終わりにします。

④ あ～、もう 10分も待っているのにまだ来ない。連絡もない。

先に始めて、この状況を終わりにしよう。

⑤ あ～、悩むわ～、どれが良いか決められない。

この一番安いのに決めて、この状況を終わりにしよう。

<sup>2</sup> [日本語文法演習 時間を表す表現－テンス・アスペクト－改訂版, 2016 年 3 月, ページ: 54]



⑥この電車<sup>でんしゃ</sup>でいいのかなあ。分<sup>わ</sup>かんないね。

も～、間違<sup>まちが</sup>ってもいいから、これに乗<sup>の</sup>って、この今<sup>いま</sup>の状<sup>じょうきよう</sup>況<sup>お</sup>を終わりにしよう。

〈解答例〉

①あ～、もう30分<sup>ふん</sup>も待<sup>ま</sup>っているのに来<sup>こ</sup>ない。もう帰<sup>かえ</sup>っちゃおう。

②あ～、この問題<sup>もんだい</sup>もう1時間<sup>じかん</sup>も考<sup>かんが</sup>えているのに分<sup>わ</sup>からない。今日<sup>きょう</sup>はもう寝<sup>ね</sup>ちゃおう。

③この最後<sup>さいご</sup>の一個<sup>いっこ</sup>誰<sup>だれ</sup>も食<sup>た</sup>べないの??じゃあ、私<sup>わたし</sup>が食<sup>た</sup>べちゃいます。

④あ～、もう10分<sup>ふん</sup>も待<sup>ま</sup>っているのにまだ来<sup>こ</sup>ない。連絡<sup>れんらく</sup>もない。先<sup>さき</sup>に始<sup>はじ</sup>めちゃおう。

⑤あ～、悩<sup>なや</sup>むわ～、どれが良<sup>い</sup>いか決<sup>き</sup>められない。この一<sup>いち</sup>番<sup>ばん</sup>安<sup>やす</sup>いの<sup>き</sup>に決<sup>き</sup>めちゃおう。

⑥この電車<sup>でんしゃ</sup>でいいのかなあ。分<sup>わ</sup>かんないね。も～、間違<sup>まちが</sup>ってもいいから、これに乗<sup>の</sup>っちゃおう。

4. まとめ

1) 今日勉強<sup>きょうべんきょう</sup>した「てしまう」

①「まだ起<sup>お</sup>きていないこと」「これからのこと」を話<sup>はな</sup>す「てしまう」もある。

②「悪いこと<sup>わる</sup>が起<sup>お</sup>こるおそれ」について「心配<sup>しんぱい</sup>な気持<sup>きもち</sup>」で話<sup>はな</sup>す練習<sup>れんしゅう</sup>した。

③それについて、どう思<sup>おも</sup>っているのかや、  
そうならないため<sup>な</sup>に何<sup>なに</sup>をするのかという練習<sup>れんしゅう</sup>もした。

④「ちゃおう（てしまおう）」「ちゃいます（てしまします）」で  
「（速<sup>はや</sup>く）～て、この状<sup>じょうきよう</sup>況<sup>お</sup>を終わりにしよう／します」という意味<sup>いみ</sup>がある。

⑤「いつも」の話<sup>はなし</sup>をするときにも使<sup>つか</sup>える。例）この問題<sup>もんだい</sup>、いつも間違<sup>まちが</sup>ってしまう。

2) 「しまった！」

「しまう」のた形<sup>けい</sup>。失敗<sup>しっぱい</sup>したときに使<sup>つか</sup>うフレーズ。

3) 用例『またここか』p.118

「あ、ふえるワカメ食<sup>た</sup>べちゃうとか。食<sup>た</sup>べちゃいけないでしょ?ちゃんとわかってるんだよ。  
食<sup>た</sup>べたら駄目<sup>だめ</sup>。駄目<sup>だめ</sup>絶対<sup>ぜったい</sup>。そう思<sup>おも</sup>うのに、食<sup>た</sup>べてる自分<sup>じぶん</sup>を頭<sup>あたま</sup>に思<sup>おも</sup>い浮<sup>う</sup>かべちゃう。一度頭<sup>いちどあたま</sup>  
に浮<sup>う</sup>かんだら、もうその想像<sup>そうぞう</sup>を止<sup>と</sup>められなくなる。駄目<sup>だめ</sup>駄目<sup>だめ</sup>駄目<sup>だめ</sup>駄目<sup>だめ</sup>思<sup>おも</sup>えば思<sup>おも</sup>うほど、  
想像<sup>そうぞう</sup>が膨<sup>ふく</sup>らんでいく。膨<sup>ふく</sup>らんで膨<sup>ふく</sup>らみ切<sup>き</sup>って苦<sup>くる</sup>しくなっ、パンパンになっ想像<sup>そうぞう</sup>を止<sup>と</sup>め  
る方法<sup>ほうほう</sup>はひとつしかないの。しちゃう。やっちゃう。やってしまう。ふえるワカメ食<sup>た</sup>べち  
ゃう。」  
(引用：坂元裕二『またここか』リトルモア、2018年10月、p.118)



5. かいわぶん  
会話文  
かいわ  
会話2

ことば

やばい	〈形容詞〉	あぶない。自分にとって良くない状況を感じていう <sup>3</sup> 。
ぎゅうにゅう 牛乳アレルギー	〈名詞〉	ぎゅうにゅうのくちいれたりすると出るアレルギー。 Allergy。
さくせん 作戦	〈名詞〉	たたか戦いやスポーツなどの試合で勝つために考える方法。 ある目的を達成するために考える方法。例) 作戦を立てる。
ぶー		ふまん不満があるときに出る声。
おしぼり	〈名詞〉	みずぬらし絞った小さいタオル。レストランなどで手を ふくために出される。顔を拭く人もいる。
ノック	〈名詞/する〉	knock。部屋などに入るときや人がいるか知りたいときに ドアを軽く叩くこと。

ことばを かくにん 確認してみよう！

意味を かんが 考えながら、1)～3)の文を読んで、習ったことばに線を引きましょう。

- 1) 3回も同じ試験に落ちちゃうのは、やばいから、落ちちゃわないように勉強しよう。
- 2) すみません。牛乳アレルギーがあって、ヨーグルトもちょっと食べられないんです。
- 3) おしぼりで頭を拭くおじさんもいるし、おしぼりでテーブルを拭くおばさんもいる。

い み わか 意味が解りますか

Vてみよっか・・・「Vてみようか」の意味。例) 食べてみよっか＝食べてみようか

<sup>3</sup> かいわぶん 会話文では良くない意味で使っているが、良い意味でも使われる。「最高だ」「すごくいい」「すごくおいしい」「すごくおもしろい」「すごく楽しい」など。

きゆうとうしつ  
給湯室で

—お客さんに出すはずのブラックコーヒーにミルクを入れてしまって、こまっています。—

A: じゃあ、出してみよっか…。いや、でも、気づかれちゃったら、やばいし、それより、もしあの人が牛乳アレルギーだったら、大変なことになっちゃいますよね。

B: じゃあ、先にこの牛乳プリンを出して、このプリンが OK だったら、このコーヒーを出すのはどう？この真っ白いプリンが OK で、ミルクちょっと入っちゃったけどこんなに黒いコーヒーがダメなわけがない。

A: じゃあ、もうその作戦で行きましょう。コーヒー冷めちゃいますから、先輩、早く行ってください！（え？？）でも、こぼしちゃわないようにゆっくり歩くんですよ！（えーわたしが行くの？ゆっくり歩いて早く行くってなに？）ケーキ食べてしまったのは誰ですか。（ぶー）はい、おしぼりも持って行ってね。（ぶー）はい、行って行って、行ってらっしゃい！

〈ドアをノックして、開ける〉

B: お待たせしてしまい、申し訳ございません。

こちらよろしければ、どうぞお召し上がりください。

ことば

- (だれ) の右手に<sup>みぎで まわ</sup>回る (だれ) の右側<sup>みぎがわ</sup>に<sup>いどう</sup>移動する。
- さすが 〈副詞〉 「思<sup>おも</sup>っていた<sup>とお</sup>通り<sup>い</sup>で、やっぱり、すごい。」の意味
- 計算<sup>けいさん</sup>する 〈動詞〉 状<sup>じょうきよう</sup>況<sup>み</sup>を見て、その過<sup>かてい</sup>程<sup>けっか</sup>と結<sup>よ</sup>果<sup>そく</sup>を予測<sup>よ</sup>する<sup>す</sup>。
- ぺろっと 〈副詞〉 ぺろり。食<sup>た</sup>べものや料<sup>りょうり</sup>理<sup>みじか</sup>を短<sup>じかん</sup>い時<sup>ぜんぶ</sup>間で全<sup>た</sup>部<sup>ようす</sup>食<sup>く</sup>べてし<sup>ま</sup>う様<sup>ようす</sup>子<sup>し</sup>。
- 例) ぺろっと食<sup>た</sup>べる、食<sup>た</sup>べてし<sup>ま</sup>った、食<sup>た</sup>べき<sup>た</sup>った

エグゼクティブシェフ

- 〈名詞〉 executive chef。上<sup>じょうきゆう</sup>級<sup>りょうりちよう</sup>クラ<sup>りょうり</sup>スの料<sup>りょうり</sup>理<sup>ちよう</sup>長<sup>ちよう</sup>
- (名詞) + 並<sup>なみ</sup> (名詞) と同<sup>おな</sup>じレ<sup>れい</sup>ベ<sup>ひと</sup>ル 例) あの人<sup>ひと</sup>の足<sup>あし</sup>の速<sup>はや</sup>さはバ<sup>は</sup>イク並<sup>なみ</sup>だよ。
- 意味：あの人<sup>ひと</sup>はバ<sup>は</sup>イクのよう<sup>よう</sup>に早<sup>はや</sup>く走<sup>はし</sup>る。

- バレる 〈動詞〉 隠<sup>かく</sup>したいこ<sup>し</sup>とが知<sup>み</sup>られ<sup>る</sup>る、見<sup>み</sup>つかる。
- 取<sup>と</sup>り替<sup>か</sup>える 〈動詞〉 あるもの<sup>ちが</sup>を違<sup>か</sup>うもの<sup>か</sup>と替<sup>か</sup>える。
- つられる 〈動詞〉 誰<sup>だれ</sup>かがし<sup>て</sup>いるこ<sup>と</sup>に影<sup>えい</sup>響<sup>きよう</sup>を受<sup>う</sup>けて、自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>も同<sup>おな</sup>じよう<sup>な</sup>こ<sup>と</sup>をす<sup>る</sup>。
- 例) みん<sup>れい</sup>なが笑<sup>わら</sup>っているの<sup>の</sup>につ<sup>ぜんぜん</sup>ら<sup>おも</sup>れて、全<sup>ぜん</sup>然<sup>ぜん</sup>面白<sup>おもしろ</sup>くないけ<sup>ど</sup>、
- 笑<sup>わら</sup>ってし<sup>ま</sup>った。

ことばの 確<sup>かく</sup>認<sup>にん</sup>してみよう！

意味<sup>い</sup>を考<sup>かんが</sup>えな<sup>が</sup>ら、1) ~ 3) の文<sup>ぶん</sup>を読<sup>よ</sup>んで、習<sup>なら</sup>ったこ<sup>と</sup>ばに線<sup>せん</sup>を引<sup>ひ</sup>きま<sup>し</sup>よう。

- 1) プログラマ<sup>やま</sup>ーの山<sup>やま</sup>本<sup>もと</sup>さん<sup>は</sup>、わ<sup>い</sup>た<sup>いち</sup>し<sup>ちじゅう</sup>が一日<sup>しち</sup>中<sup>ちゅう</sup>ネ<sup>し</sup>ット<sup>ら</sup>で調<sup>な</sup>べても何<sup>なん</sup>も分<sup>わ</sup>からな<sup>か</sup>ったパ<sup>わ</sup>ソ<sup>こ</sup>ンの問<sup>もん</sup>題<sup>だい</sup>を3分<sup>さんぶん</sup>で解<sup>かい</sup>決<sup>けつ</sup>してし<sup>ま</sup>った。さ<sup>さ</sup>す<sup>が</sup>パ<sup>わ</sup>ソ<sup>こ</sup>ンの仕<sup>し</sup>事<sup>ごと</sup>をし<sup>て</sup>い<sup>る</sup>人<sup>ひと</sup>だと思<sup>おも</sup>った。
- 2) 隣<sup>となり</sup>に座<sup>すわ</sup>った大<sup>だい</sup>学<sup>がく</sup>生<sup>せい</sup>、お<sup>なか</sup>腹<sup>す</sup>が空<sup>あ</sup>いてい<sup>た</sup>のか、味<sup>あじ</sup>も良<sup>よ</sup>か<sup>っ</sup>たか<sup>ら</sup>な<sup>の</sup>のか、ラ<sup>ら</sup>ーメ<sup>め</sup>ンとカ<sup>か</sup>レ<sup>れ</sup>ーライ<sup>らい</sup>スを、ぺ<sup>ぺ</sup>ろ<sup>ろ</sup>と食<sup>く</sup>べ<sup>て</sup>、と<sup>と</sup>い<sup>う</sup>か、飲<sup>の</sup>ん<sup>で</sup>し<sup>ま</sup>って<sup>い</sup>た。
- 3) 母<sup>はは</sup>の<sup>だいじ</sup>大<sup>だい</sup>事<sup>じ</sup>なオ<sup>お</sup>ル<sup>る</sup>ゴ<sup>ご</sup>ール<sup>る</sup>を壊<sup>こわ</sup>してし<sup>ま</sup>ったこ<sup>と</sup>は、母<sup>はは</sup>に<sup>まだ</sup>バ<sup>バ</sup>レ<sup>レ</sup>てい<sup>な</sup>い。

4 この会<sup>かい</sup>話<sup>わ</sup>文<sup>ぶん</sup>の中<sup>なか</sup>では、「牛<sup>ぎゅう</sup>乳<sup>にゅう</sup>プリ<sup>ぷ</sup>ンを先<sup>き</sup>に出<sup>だ</sup>してお<sup>きやく</sup>客<sup>かく</sup>さん<sup>の</sup>反<sup>はん</sup>応<sup>おう</sup>を<sup>み</sup>る」とい<sup>う</sup>目<sup>もく</sup>的<sup>てき</sup>があ<sup>っ</sup>た。日<sup>に</sup>本<sup>ほん</sup>でも、お<sup>きやく</sup>客<sup>かく</sup>にお<sup>かし</sup>菓子<sup>し</sup>や飲<sup>の</sup>み物<sup>ぶつ</sup>、お<sup>だ</sup>しぼ<sup>り</sup>を<sup>だ</sup>出<sup>で</sup>す順<sup>じゅん</sup>番<sup>ばん</sup>にもマ<sup>ま</sup>ナー<sup>な</sup>がある。右<sup>みぎ</sup>か<sup>ら</sup>出<sup>だ</sup>すとき<sup>は</sup>「①お<sup>かし</sup>菓子<sup>し</sup>②の<sup>の</sup>飲<sup>の</sup>み物<sup>ぶつ</sup>③お<sup>かし</sup>菓子<sup>し</sup>」の順<sup>じゅん</sup>、左<sup>ひだり</sup>か<sup>ら</sup>出<sup>だ</sup>すとき<sup>は</sup>「①お<sup>だ</sup>しぼ<sup>り</sup>②の<sup>の</sup>飲<sup>の</sup>み物<sup>ぶつ</sup>③お<sup>かし</sup>菓子<sup>し</sup>」の順<sup>じゅん</sup>とい<sup>わ</sup>れ<sup>て</sup>い<sup>る</sup>。牛<sup>ぎゅう</sup>乳<sup>にゅう</sup>プリ<sup>ぷ</sup>ンは「お<sup>かし</sup>菓子<sup>し</sup>」な<sup>の</sup>で、先<sup>き</sup>に出<sup>だ</sup>すた<sup>め</sup>に<sup>は</sup>、お<sup>きやく</sup>客<sup>かく</sup>の右<sup>みぎ</sup>側<sup>がわ</sup>か<sup>ら</sup>出<sup>だ</sup>す必<sup>ひつ</sup>要<sup>よう</sup>があ<sup>る</sup>。そ<sup>の</sup>た<sup>め</sup>、先<sup>せん</sup>輩<sup>ぱい</sup>はそ<sup>れ</sup>を計<sup>けい</sup>算<sup>さん</sup>して、「お<sup>きやく</sup>客<sup>かく</sup>さん<sup>の</sup>右<sup>みぎ</sup>手<sup>て</sup>に<sup>まわ</sup>回<sup>わ</sup>った」とい<sup>い</sup>った。

きゅうとうしつ  
給湯室で

せんばい かいぎしつ もど  
ー先輩が会議室から戻ってきたところー

A: (ただいま〜) あれ、コーヒーだけ戻ってきた。

B: ふう〜、牛乳プリンを先に出すためだけに、お客さんの右手に回っちゃったよ。(さすが  
せんばい けいさん べんきょう ぎゅうにゅう だいじょうぶ  
先輩は、そこまで計算されるんですね。勉強になります!) で、牛乳プリンは大丈夫だっ  
たよ。5秒くらいでぺろって食べちゃった。(牛乳プリンって分かってました?) うん、  
ぎゅうにゅう だいじょうぶ よろこ  
牛乳プリンですって言ったから大丈夫。おいしいねえって喜んでくれた。コンビニで買  
ったやつだから、なんだか申し訳なくなっちゃった。

A: じゃあ、牛乳アレルギーじゃなかったですね。よかった。

B: でき、あっ、ちょっと、コーヒー用意してね。すぐに持っていかなきゃ。(はい!) でき、牛乳  
プリンは大丈夫だって分かったから、牛乳ちょっと入りの黒いコーヒーにもチャレンジし  
たよ。でも、あのお客さんの舌、すごいよ。エグゼクティブシェフ並だよ。一口飲んで、  
「さっきの方にブラックでってお願いしたんだけど。ミルクはいってるよ」って(バレちゃ  
った?) うん、それで、すぐにお取り替えしますって。

A: あ“あ“あ“あ“〜! しまった!!! またミルク入れてしまったじゃーん!!! 牛乳とか  
ミルクって聞くとつられちゃうから、もう私がコーヒー入れてるときに、牛乳とかミル  
クとか言わないでくださいね!